

国保だより

12/15

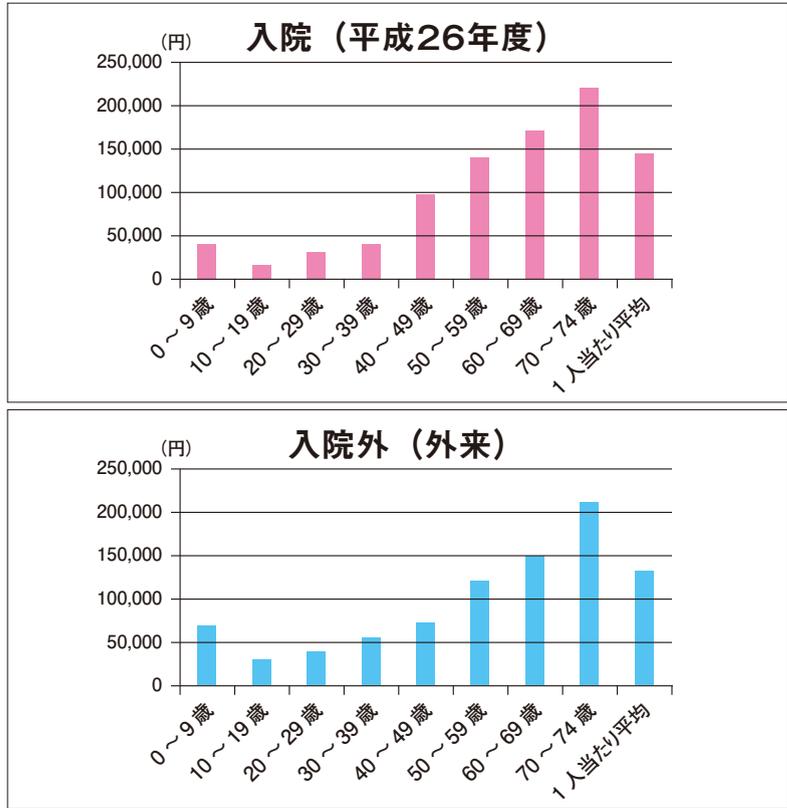
平成27年(2015年)



城陽イメージキャラクター
「じょうりんちゃん」

お問い合わせは 国保医療課 (〒610-0195 城陽市寺田東ノ口16・17 ☎56-4038 FAX56-3999)へ

図1 1人当たりの国保医療費



1人当たりの国保医療費

本市の平成26年度の国保医療費は85億7千万円、国保被保険者数は、平均22,028人となっています。

図1は平成26年度の医療費の状況です。1年間にかかる被保険者1人当たり医療費は、入院で14万2千円、入院以外で13万2千円となっています。年齢階

1人当たりの国保医療費

国民健康保険(国保)は、被保険者のみなさんが病気やケガをしたときに備えて、安心して医療が受けられるよう、お互いが助け合って医療費を負担し合う、もつとも身近な医療保険です。国保の運営は、被保険者の国民健康保険料(国保料)と、国・府市の負担金などで賄われています。

みなさんの健康と医療を守る国保

被保険者数の推移

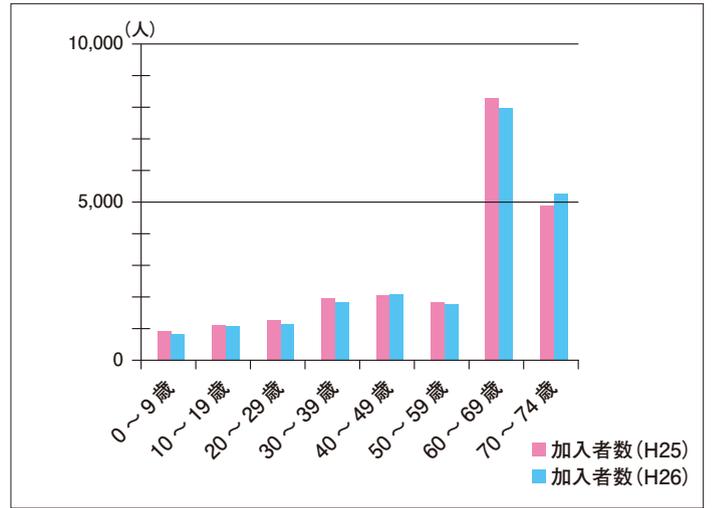
図2は被保険者数の推移ですが、全市民のうち、約28% (平成26年度末)の人が国保に加入しています。

年度末時点で昨年度と比較すると、70歳~74歳の加入者数が増加しています。

医療費と負担

被保険者は医療機関の窓口で支払う一部負担金として、医療費の3割(小学校入学前は2割、70歳以上は1割~3割)を負担し、残りを国保が負担します。平成26年度に国保会計で負担した医療給付費と後期高齢者支援金などは85億7,340万円で、その24.4%

図2 被保険者の推移



みなさんの健康を守る大切な国保です。一人一人が医療費を効果的に使うよう心掛けましょう。

医療費が増加すると、被保険者の国保料の負担も増加します。

医療費については、高齢化や医療の進歩などにより年々増加する傾向にあります。市では、平成25年度の医療給付費66億2,821万円と比較して、平成26年度68億6,145万円と3.5%という高い伸びとなっています。

医療費が増加すると、被保険者の国保料で負担しています。

医療機関を受診する際の一人一人の心掛けが、医療費と自己負担分の節減につながります。みなさんに心掛けていただきたいポイントを紹介いたします。

休日や夜間の救急医療は控えましょう

休日や夜間の救急医療は、本来緊急性の高い患者さんのためです。「待ち時間が短いから」などの安易な理由で休日や夜間に救急医療機関を受診すると、医療費が高額設定されているだけでなく、緊急性の高い患者さんの治療に支障をきたしてしまうこともあります。急病などやむを得ない場合を除いては、診療時間内に受診しましょう。

かかりつけ医をもちましょ

かかりつけ医とは、病歴や健康状態などを把握して健康管理全般のアドバイスをしてくれる医師のことです。気になる症状があれば、まずかかりつけ医に相談し、必要に応じてかかりつけ医から適切な医療機関を紹介してもらいましょう。

医療機関の適正受診に協力ください

医療機関を受診する際の一人一人の心掛けが、医療費と自己負担分の節減につながります。みなさんに心掛けていただきたいポイントを紹介いたします。

かかりつけ医とは、病歴や健康状態などを把握して健康管理全般のアドバイスをしてくれる医師のことです。

医療機関を受診する際の一人一人の心掛けが、医療費と自己負担分の節減につながります。

みなさんに心掛けていただきたいポイントを紹介いたします。

休日や夜間の救急医療は控えましょう

城陽市国保の給付のしくみ

みなさんが外来診療で医療機関を受診し、窓口で3,000円支払われた場合の医療費の総額は10,000円で、差額の7,000円は城陽市国保で負担しています(※)。その7,000円の財源の内訳は以下のとおりです。(平成26年度決算をもとに計算しています)

※3割負担の人の場合

- 保険料...1,336円
- みなさんから納めていただく国保料です
- 国などから交付されるお金...5,082円
- 国保財政を安定させるために交付されます(療養給付費交付金、前期高齢者交付金など)
- 京都府から交付されるお金...307円
- 国保財政を安定させるために交付されます
- その他...275円
- 一般会計からの繰り入れなどを含め、上記以外のその他の収入です

医療費が増加すると、みなさんに負担していただく国保料も増加することになります

休日や夜間の救急医療は控えましょう

休日や夜間の救急医療は、本来緊急性の高い患者さんのためです。「待ち時間が短いから」などの安易な理由で休日や夜間に救急医療機関を受診すると、医療費が高額設定されているだけでなく、緊急性の高い患者さんの治療に支障をきたしてしまうこともあります。急病などやむを得ない場合を除いては、診療時間内に受診しましょう。

かかりつけ医をもちましょ

かかりつけ医とは、病歴や健康状態などを把握して健康管理全般のアドバイスをしてくれる医師のことです。気になる症状があれば、まずかかりつけ医に相談し、必要に応じてかかりつけ医から適切な医療機関を紹介してもらいましょう。

医療機関の適正受診に協力ください

医療機関を受診する際の一人一人の心掛けが、医療費と自己負担分の節減につながります。みなさんに心掛けていただきたいポイントを紹介いたします。

かかりつけ医とは、病歴や健康状態などを把握して健康管理全般のアドバイスをしてくれる医師のことです。

医療機関を受診する際の一人一人の心掛けが、医療費と自己負担分の節減につながります。

みなさんに心掛けていただきたいポイントを紹介いたします。

休日や夜間の救急医療は控えましょう

ジェネリック医薬品を使いましょう

ジェネリック医薬品は、有効成分が同一であることなどが審査され、国から製造・販売が承認された安価な薬です。

「治療」の前に「予防」を

病気を未然に防ぐため、また、病気を早期に発見し、治療するために、年に1回は健康診断を受けましょう。城陽市国保では、40歳以上の人を対象に生活習慣病に重点を置いた特定健診を毎年実施しています。平成27年度は6月~10月に実施しました。今年度から「無料」になっていますので、受診できなかつた人は来年度に受診しましょう。実施時期については、「広報じょうよう」でご案内します。

重複受診はやめましょ

同じ病気で複数の医療機関を紹介なく受診することを重複受診といいます。その都度初診料がかかり医療費が増加するだけでなく、何度も検査や処置・投薬などを受けることにより体に負担がかかる可能性があります。まずはかかりつけ医に相談し、必要な場合はか

ジェネリック医薬品を使いましょう

ジェネリック医薬品は、有効成分が同一であることなどが審査され、国から製造・販売が承認された安価な薬です。

「治療」の前に「予防」を

病気を未然に防ぐため、また、病気を早期に発見し、治療するために、年に1回は健康診断を受けましょう。城陽市国保では、40歳以上の人を対象に生活習慣病に重点を置いた特定健診を毎年実施しています。平成27年度は6月~10月に実施しました。今年度から「無料」になっていますので、受診できなかつた人は来年度に受診しましょう。実施時期については、「広報じょうよう」でご案内します。

重複受診はやめましょ

同じ病気で複数の医療機関を紹介なく受診することを重複受診といいます。その都度初診料がかかり医療費が増加するだけでなく、何度も検査や処置・投薬などを受けることにより体に負担がかかる可能性があります。まずはかかりつけ医に相談し、必要な場合はか

ジェネリック医薬品を使いましょう

ジェネリック医薬品は、有効成分が同一であることなどが審査され、国から製造・販売が承認された安価な薬です。

ジェネリック医薬品を使いましょう

ジェネリック医薬品は、有効成分が同一であることなどが審査され、国から製造・販売が承認された安価な薬です。

「治療」の前に「予防」を

病気を未然に防ぐため、また、病気を早期に発見し、治療するために、年に1回は健康診断を受けましょう。城陽市国保では、40歳以上の人を対象に生活習慣病に重点を置いた特定健診を毎年実施しています。平成27年度は6月~10月に実施しました。今年度から「無料」になっていますので、受診できなかつた人は来年度に受診しましょう。実施時期については、「広報じょうよう」でご案内します。

重複受診はやめましょ

同じ病気で複数の医療機関を紹介なく受診することを重複受診といいます。その都度初診料がかかり医療費が増加するだけでなく、何度も検査や処置・投薬などを受けることにより体に負担がかかる可能性があります。まずはかかりつけ医に相談し、必要な場合はか

ジェネリック医薬品を使いましょう

ジェネリック医薬品は、有効成分が同一であることなどが審査され、国から製造・販売が承認された安価な薬です。

「治療」の前に「予防」を

病気を未然に防ぐため、また、病気を早期に発見し、治療するために、年に1回は健康診断を受けましょう。城陽市国保では、40歳以上の人を対象に生活習慣病に重点を置いた特定健診を毎年実施しています。平成27年度は6月~10月に実施しました。今年度から「無料」になっていますので、受診できなかつた人は来年度に受診しましょう。実施時期については、「広報じょうよう」でご案内します。

重複受診はやめましょ

同じ病気で複数の医療機関を紹介なく受診することを重複受診といいます。その都度初診料がかかり医療費が増加するだけでなく、何度も検査や処置・投薬などを受けることにより体に負担がかかる可能性があります。まずはかかりつけ医に相談し、必要な場合はか

ジェネリック医薬品を使いましょう

ジェネリック医薬品は、有効成分が同一であることなどが審査され、国から製造・販売が承認された安価な薬です。

